

1. バリアフリー整備の目標

J R 河内磐船駅、京阪河内森駅及びその周辺地域を重点整備地区として、駅舎や特定経路などのバリアフリー化を重点的かつ一体的に進め、ユニバーサルデザインの考え方に配慮しながら、高齢者や身体障害者をはじめ誰もが自らの意思で自由に移動できる環境の整備をめざします。

2. 目標年次

計画の目標年次は平成22年（2010年）とします。ただし、今後の社会情勢の変化や技術の進歩により、必要に応じて計画を見直すものとします。

3. 整備の基本方針

（1）みんなが利用する駅舎の安全性と利便性の向上

市民が日常利用するための安全性、利便性ととも、市を訪れる多くの訪問者のわかりやすさや快適性も重要です。誰もが安心して安全に利用できる快適な駅舎づくりをめざします。

（2）両駅を結ぶ円滑な乗り換え経路の確保

J R 河内磐船駅は乗降客が増加しており、京阪河内森駅との相互乗り換え利用も多くなっています。両駅の整備とともに、安全性と快適性に配慮した乗り換え経路の確保をめざします。

（3）多くの人びとが行き交う魅力ある都市環境の充実

主要公共施設や商業施設などの都市機能が充実していく中で、より多くの人が集まるまちなりつつあります。地形的な制約を勘案しながら誰もが安全で快適に行き交う魅力ある都市環境づくりをめざします。

4 . 関係機関との連携による重点的かつ一体的な整備推進

バリアフリー整備に関わる事業主体は、公共交通事業者、道路管理者、交通安全事業者など、多岐にわたります。また、高齢者、障害者等を含めた全ての市民が、交通の利用者として位置づけられます。このため、事業主体、利用者の連携を図りながら一体的な整備を進めます。

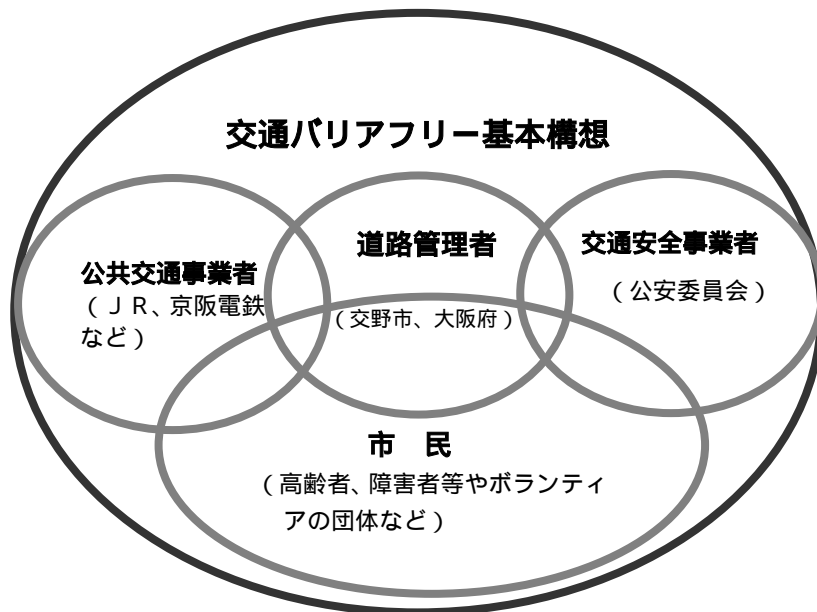


図8 バリアフリー整備の連携

5 . 今後の推進体制等

各事業主体は、この基本構想に即し具体的な事業計画を作成することになりますが、バリアフリー整備を一体的に進めるため、各事業者で構成する連絡会を設置して連絡調整を図りながら、事業計画を策定し事業を実施するものとします。

また、高齢者、身体障害者等の円滑な移動を実現するためには、駅舎をはじめとする公共空間のバリアフリー化とともに、市民一人ひとりの理解と協力が不可欠です。まちで高齢者、障害者等が困っている場面に出会ったときに声をかけたり、手助けをするなどの積極的な協力や違法駐車、駐輪をなくすことの重要性の呼びかけなど、市民への広報活動を行っていきます。